

日本国特許庁  
PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて  
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed  
with this Office.

JC945 U.S. PTO  
09/029399  
04/23/01

出願年月日  
Date of Application:

2000年 4月 28日

出願番号  
Application Number:

特願 2000-131601

出願人  
Applicant(s):

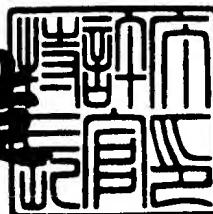
パイオニア株式会社

CERTIFIED COPY OF  
PRIORITY DOCUMENT

2001年 2月 23日

特許庁長官  
Commissioner,  
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特 2001-3009942

【書類名】 特許願

【整理番号】 54P0374

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04M 1/02

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県川越市山田字西町25番地1

パイオニア株式会社 川越工場内

【氏名】 堀井 和継

【特許出願人】

【識別番号】 000005016

【氏名又は名称】 パイオニア株式会社

【代表者】 伊藤 周男

【電話番号】 0492-23-1111

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 032595

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 通信装置

【特許請求の範囲】

【請求項1】

アンテナと、前記アンテナを装置に回動自在に支持するアンテナ支持部と、前記アンテナと同軸かつ一体に設けられた歯車と、前記歯車と歯合して前記アンテナの回動を検出する回動検出手段とを有することを特徴とする通信装置。

【請求項2】

前記アンテナを装置内部に収納可能な収納部を有し、前記アンテナの収納状態及び前記アンテナの非収納状態で、前記歯車と前記回動検出手段とが歯合することを特徴とする請求項1に記載の通信装置。

【請求項3】

装置に可動自在に支持されるアンテナと、前記アンテナの移動を認識する移動認識手段とを有し、前記移動認識結果に基づく前記アンテナの移動方向又は移動量に応じて情報選択を行うことを特徴とする通信装置。

【請求項4】

装置に回動自在に支持されるアンテナと、前記アンテナの回動を検出する回動検出手段とを有し、前記回動検出結果に基づく前記アンテナの回動方向又は回動量に応じて情報選択を行うことを特徴とする通信装置。

【請求項5】

装置に可動自在に支持されるアンテナと、前記アンテナの移動を認識する移動認識手段とを有し、前記移動認識結果に基づく前記アンテナの回動方向又は回動量に応じて情報検索を行い、前記移動認識結果に基づく前記アンテナの回動軸方向の移動方向又は移動量に応じて情報選択を行うことを特徴とする通信装置。

【請求項6】

前記情報選択に応じて通信を行うことを特徴とする請求項3乃至請求項5に記載の通信装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、アンテナにより無線通信する通信装置に関し、特に、使用者が通信の際に行う各種操作の操作性を向上した通信装置に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、アンテナにより無線通信することのできる通信装置の一例に携帯用無線電話装置がある。携帯用無線電話装置は、携帯に便利なように小型であることが必要な反面、相手の電話番号などの文字や画像の表示をするために設けられる液晶パネルなどの表示部の表示面積は大きく見やすいほうが望ましく、しかも、無線ネットワーク端末として多機能を有することが望まれるので、通常は、電話帳リストの各項目の入力及び検索や、Eメールの文字入力など、膨大なデータを10キーなどの数少ないキーに割り当てて選択及び入力が可能なように形成することで、装置を小型にし、且つ表示部の必要な表示面積を確保していた。

【0003】

また、携帯用無線電話装置には、通常、電波を送受信するための棒状のアンテナが用いられる。棒状のアンテナは、装置の携帯時の利便性を上げるために使用者によって装置内部に収納が可能であり、また、必要に応じて装置内部に収納されているアンテナを装置外部に引き出すことが可能である。

【0004】

使用者は、アンテナを装置内部に収納した上で装置の電源を投入しておくことにより、携帯用無線電話装置を相手からの電話の待ち受け状態にして常時携帯することができ、相手からの電話の着信音による着呼が有った場合には、装置の操作パネルなどに設けられた通話鈍を押して着信中の相手の電話と回線接続させて通話可能とした上で、通話時における受信感度を上げるためにアンテナを装置本体内から外部に引き出すことにより相手と無線による通話ができる。

【0005】

また、使用者が、非動作状態にある携帯用無線電話装置から、希望する相手に電話をしたい場合には、まず、装置の電源を投入した上で、相手先の電話番号を入力又は選択するなど相手先と通話する際に必要なキー操作を行うと共に、アン

テナを装置外部に引き出した後、通話釦を押すことにより希望する相手先の電話に発呼することができる。

#### 【0006】

##### 【発明が解決しようとする課題】

ところが、上述したように、携帯用無線電話装置では、相手先と通話する際に必要なキー操作を少ないキーに割り当てているので、使用者が行うキー操作は非常に煩わしいものとなる。

#### 【0007】

即ち、例えば、使用者が相手先の電話番号を電話帳リストの検索により選択する場合には、表示部に電話帳リストを表示させた上でUPキーやDOWNキーなどを適宜複数回押してリストをその都度上下にスクロール表示させて希望の電話番号を選択する必要がある。したがって、電話帳に登録してある相手先の件数が多くれば多いほど電話帳リストのデータ量が多くなるのでリスト中から希望する相手先を選択する際にUPキーやDOWNキーなどのキーを押す回数も増え、選択に要する時間も長くなる。

#### 【0008】

また、メールの文字入力を行う場合は、10キーが文字入力キーに割り当てられている場合が多く、例えば、「あ行」は「1番キー」、「か行」は「2番キー」、というように、ひらがな50音の行が番号キーにより選択可能に割り当てられ、使用者が選択したとき番号キーを1回押す毎に当該番号キーに対応する行のひらがなが順送りに表示されて選択が可能となる。したがって、例えば、「こんにちは」という5文字を入力するだけでも相当回数のキー操作が必要となる。また、誤って所望の文字を通り過ぎてしまった場合は、引き続き当該番号キーの押圧操作を繰り返して当該行における文字を巡回させて表示させる訂正操作を行わなければならず、その結果、文字選択に要する時間が更に長くなる。

#### 【0009】

このように、従来では、使用者が携帯用無線電話装置を用いて希望する相手先に電話をする場合には、上述した少ない操作キーによる煩わしいキー操作に加えて、操作キーとは離れた場所に設けられたアンテナを装置内部から外部に引き出

し、通話ボタンを押す必要があり、電話の相手と通話をする上での一連の操作が複雑となり不便であった。

#### 【0010】

本発明は、上述の問題点に鑑みなされたものであり、使用者が装置の通信に関する一連の操作を容易に行うことのできる通信装置を提供することを目的とする。

#### 【0011】

##### 【課題を解決するための手段】

請求項1に記載の発明は、アンテナと、アンテナを装置に回動自在に支持するアンテナ支持部と、アンテナと同軸かつ一体に設けられた歯車と、歯車と歯合してアンテナの回動を検出する回動検出手段とを有することを特徴とする通信装置により構成する。

#### 【0012】

請求項1に記載の発明によれば、アンテナ支持部によってアンテナが装置に回動自在に支持されて、且つ、回動検出手段によってアンテナの回動が検出できるので、使用者は、アンテナの回動を利用した情報選択を行うことができる。

#### 【0013】

また、請求項2に記載の発明は、請求項1に記載の通信装置において、アンテナを装置内部に収納可能な収納部を有し、アンテナの収納状態及びアンテナの非収納状態で、歯車と回動検出手段とが歯合することを特徴とする。

#### 【0014】

また、請求項3に記載の発明は、装置に可動自在に支持されるアンテナと、アンテナの移動を認識する移動認識手段とを有し、移動認識結果に基づくアンテナの移動方向又は移動量に応じて情報の選択を行うことを特徴とする通信装置により構成する。

#### 【0015】

請求項3に記載の発明によれば、移動認識手段がアンテナの移動方向又は移動量を認識しているので、使用者は、アンテナの移動に応じて複数の情報を選択できる

【0016】

また、請求項4に記載の発明は、装置に回動自在に支持されるアンテナと、アンテナの回動を検出する回動検出手段とを有し、回動検出結果に基づくアンテナの回動方向又は回動量に応じて情報の選択を行うことを特徴とする。

【0017】

請求項4に記載の発明によれば、アンテナの回動に応じて情報の選択が行なえるため、情報を選択する際の一連のキー操作を簡略できる。

【0018】

また、請求項5に記載の発明は、装置に可動自在に支持されるアンテナと、アンテナの移動を認識する移動認識手段とを有し、移動認識結果に基づくアンテナの回動方向又は回動量に応じて情報検索を行い、移動認識結果に基づくアンテナの回動軸方向の移動方向又は移動量に応じて情報選択を行うことを特徴とする。

【0019】

請求項5に記載の発明によれば、情報の検索と選択とを異なる動作で行なうため、情報を選択する際の一連のキー操作をより簡略できる。

【0020】

また、請求項6に記載の発明は、請求項3乃至請求項5に記載の通信装置において、移動検出手段の移動検出結果に応じて通信を行うことを特徴とする。

【0021】

【発明の実施の形態】

次に、本発明の好適な実施の形態について図をもとに説明する。

図1は、本発明の第1実施形態における通信装置としての携帯用無線電話装置P1を示す図であり、図1(a)は、アンテナが収納位置に有る場合の携帯用無線電話装置P1の外観図を示し、図1(b)は、アンテナが収納位置に有る場合の携帯用無線電話装置P1を装置内部の一部と共に示した図であり、図1(c)は、アンテナが引き出し位置に有る場合の携帯用無線電話装置P1を装置内部の一部と共に示した図である。携帯用無線電話装置P1は、キーパッド1、表示部2、ガイド部3、アンテナ4、スライドガイド5、検出スイッチ7、星型歯車8

、検出スイッチ9、検出スイッチ10を有して構成される。

#### 【0022】

キーパッド1及び表示部2は、携帯用無線電話装置P1の前面に設けられている。キーパッド1は、電源のON/OFFを行う電源鉗や、電話番号などを入力するための10キー、電話帳機能や電子メール機能などの各種機能の切替鉗や（スクロールキー、表示部2に表示されたカーソルを上下左右4方向に独立して移動させるための4つのカーソルキー）、電話帳リストに相手の名前などの文字や電話番号などの各種情報を登録するためのメモリキー、通話を開始するための通話鉗などが設けられている。また、表示部2は、例えば液晶パネルで構成され、電話帳リストや電子メールの内容を表示する。

#### 【0023】

アンテナ4は、略円筒形の頭部4a及びそれに続く円形の断面を有する金属棒4bからなる棒状のアンテナで形成されている。アンテナ4は、金属棒4bが装置P1に設けられたガイド部3に貫通して配される。アンテナ4は、使用者の手動操作によって、金属棒4bが装置内部に押し込まれることによりアンテナ収納位置（図1（b）参照）に収納可能であり、また、アンテナ収納位置からアンテナ引き出し位置（図1（c）参照）まで引き出しが可能である。なお、アンテナ4は、収納位置及び引き出し位置において、このガイド部3及びスライドガイド5によって金属棒4bの軸を略中心として回動自在に支持される。

#### 【0024】

スライドガイド5は、管状を有し、装置P1の内部に設けられており、アンテナ4を収納位置から引き出し位置まで移動自在に支持する。アンテナ4が収納位置から引き出し位置までの間を移動する場合には、アンテナ4がガイド部3に導かれると共に、アンテナ4の金属棒4bの下端部分がこのスライドガイド5に導かれて上下方向、即ち、アンテナ4の回動軸に水平な方向に移動する。

#### 【0025】

図2は、ガイド部3の主要構造を示した図であり、図2（a）は、アンテナ4が収納位置にある場合のガイド部3の断面図を示し、図2（b）は、アンテナ4が引き出し位置に有る場合のガイド部3の断面図を示す。図2に示すように、ガ

イド部3は、アンテナ4の頭部4aの一部を収納するための中空円筒部3aの下端部分に金属ナット3b及び取付ねじ3cがそれぞれ固定されて、取付ねじ3c上にコイルばね6が取り付けられて構成される。金属ナット3bは、装置P1が有する図示せぬ送受信部の電波入出力端に接続されている。また、取付ねじ3cには、中央部分に金属棒4bを貫通する孔が設けられている。

#### 【0026】

アンテナ4が例えば使用者により装置外部から装置内部に押し込まれて収納される場合には、頭部4aが中空円筒部3aの中空部分に収納された状態となる。このとき、頭部4aの底部がばね6に係止すると共に、弾性を有するばね6の復元力により取付ねじ3cの上部から所定の高さ位置に配される。これにより、アンテナ4が収納位置に配される。また、アンテナ4が装置内部から装置外部に引き出された場合には、図2(b)に示すように、金属棒4bの下端部分が取付けねじ3cの中央の孔に嵌合して係止することにより引き出し位置に配されて取付けねじ3cに保持される。また、図2(b)に示すように、アンテナ4が引き出し位置に有る場合は、金属棒4bが金属ナット3bに係止するので、アンテナ4と送受信部の電波入出力端が電気的に接続される。

#### 【0027】

また、検出スイッチ7は、アンテナ4が引き出し位置にあるか否かを検出するためのON/OFFスイッチであり、図1に示すように、装置P1内部のスライドガイド5の上端付近に設けられている。

#### 【0028】

アンテナ4が引き出し位置まで引き出された場合は、図2(b)に示すように、検出スイッチ7がアンテナ4の下端部分に押されてONの状態となるので、装置の図示せぬ制御部がこれを検出することにより、アンテナ4が引き出し位置にあることを検出することができる。

#### 【0029】

また、星型歯車8は、歯車の歯に相当する複数の互いに等しい形状の突起が歯車の軸を中心に放射上に均等に配された星型形状の断面を有する柱状の歯車であり、図2(b)に示すように、アンテナ4の金属棒4bの下端部分に固定されて

おり、収納位置から引き出し位置までの間をアンテナ4と一緒に移動可能に形成される。したがって、星型歯車8は、アンテナ4が収納位置及び引き出し位置にある場合にアンテナ4と一緒に回動が可能である。

### 【0030】

検出スイッチ9と検出スイッチ10は、それぞれアンテナ4の回動を検知するためのスイッチであり、図1に示すように、それぞれ装置P1内部のスライドガイド5の下端付近及び上端付近に設けられている。検出スイッチ9は、アンテナ4が収納位置にある場合に星型歯車8と歯合して星型歯車8の回動を検知することにより、星型歯車8と一緒にアンテナ4の回動を検知することができる。また、検出スイッチ10は、アンテナ4が引き出し位置にある場合に星型歯車8と歯合して星型歯車8の回動を検知することにより、星型歯車8と一緒にアンテナ4の回動を検知することができる。

### 【0031】

図3は、検出スイッチ9（又は、検出スイッチ10）と歯合する星型歯車8の断面図である。図3に示すように、検出スイッチ9及び検出スイッチ10は、アンテナ4の正方向及び逆方向における回動をそれぞれ検知することのできる2回路選択スイッチで構成される。検出スイッチ9及び検出スイッチ10には、それぞれレバー11が設けられており、アンテナ4が収納位置に有る場合には星型歯車8が検出スイッチ9のレバー11と歯合し、また、アンテナ4が引き出し位置に有る場合には星型歯車8が検出スイッチ10のレバー11と歯合する。各検出スイッチのレバー11は、常時それぞれの端末cに接続されており、歯合する星型歯車8の回動に応じて歯合中のレバー11が星型の複数の突起部分によって順次回動方向に断続的に押されると、その都度端末a又は端末bの何れかを選択するので、断続的に回路選択がなされる。

### 【0032】

具体的には、星型歯車8が図3に示す矢印の方向（反時計方向）に回動する場合は、星型歯車8の回動に伴ってレバー11が星型歯車8の星型の突起部分に順次押されて端末aと断続する。その結果、端末aと端末cが断続的に回路接続される。また、星型歯車8が図3に示す矢印の方向とは逆方向（時計方向）に回動

する場合は、星型歯車8の回動に伴ってスイッチレバー11が星型歯車8の星型の突起部分に順次押されて端末bと断続する。つまり、検出スイッチ9及び検出スイッチ10は、レバー11によって端末aと端末cの何れかの回路選択を断続的に行なうことでその都度星型歯車8の回動を検出することができる。つまり検出スイッチ9及び検出スイッチ10は、端末aが1回断続する毎に星型歯車8が有する突起の数に対応したアンテナ4の正方向の回動量、つまり回動角度を検出することができ、また、端末bが1回断続する毎に星型歯車8が有する突起の数に対応したアンテナ4の負方向の回動量、つまり回動角度を検出することができる。

これにより、携帯用無線電話装置P1の図示せぬ制御部は、検出スイッチ9又は検出スイッチ10の検出出力によりアンテナ4の回動方向及びその方向での回動量を逐次検出することができる。

#### 【0033】

以上の如く、携帯用無線電話装置P1では、装置P1に設けられた各検出スイッチによってアンテナ4の移動を認識することができる。即ち、検出スイッチ7は、アンテナ4の上下移動方向においてアンテナ4が引き出し位置に有るか否かをそれぞれ検出し、検出スイッチ9と検出スイッチ10は、それぞれ、アンテナ4が収納位置、引き出し位置に有る場合のアンテナ4の回動量を回動方向と共に検出することができる。

#### 【0034】

したがって、携帯用無線電話装置P1は、上記した検知スイッチの検出結果を利用することによって、アンテナ4に後述する各種機能を選択し動作させるための選択手段の役割を持たせている。つまり、装置P1の図示せぬ制御部が、各検出手段の検出結果に基づく制御を行うことにより、アンテナ4の上記移動動作に応じて各種機能を選択し動作させることができる。

#### 【0035】

次に、アンテナ4の各移動動作に応じた装置P1の各機能について説明する。

(アンテナ4の上下移動動作に応じた機能)

(1) 電話の発信時及び着信時における通話機能

検出スイッチ7の検出結果により装置P1を電話の着信時に通話可能な状態にすことができ、また、検出スイッチ7の検出結果により装置P1を指定された相手先の電話に発信して発呼することができる。

#### 【0036】

具体的には、選択手段としてのアンテナ4が収納位置に収納されて電話の待ち受け状態にある装置P1に相手からの電話の着信音による着呼が有った場合に、使用者がこれに応じてアンテナ4を引き出す動作をすることにより、検出スイッチ7がOFFからONに切替えられるので、制御部がこの場合の検出スイッチ7の出力結果に応じて着信中の相手の電話と回線接続させて通話可能となるように制御する。

#### 【0037】

また、使用者が希望する相手に電話をする場合には、アンテナ4を引き出し位置まで引き出す動作をすることにより、検出スイッチ7がOFFからONに切替えられるので、制御部がこの場合の検出スイッチ7の出力結果に応じて、選択された相手先の電話に発信して発呼することができる。なお、相手先の電話番号の指定は、使用者がキーパッド1や電話帳リストからの操作に基づいてアンテナ4の引き出し動作の以前に行っても良いし、アンテナ4を引き出し位置まで引き出した後に行っても良い。

#### 【0038】

以上により、使用者は、アンテナの引き出し動作のみで、別途通話鈎を押さなくても容易に着信相手と通話することができ、また、別途通話鈎を押さなくても容易に指定の相手先の電話に発信して発呼することができる。

#### 【0039】

##### (2) 通話中における電話回線切断機能

相手先との電話と通話可能状態に有る装置P1を、検出スイッチ7の検出結果により、相手先の電話に対して不通にすることができる。

#### 【0040】

具体的には、電話の相手先と通話中に、使用者が、引き出し位置にあるアンテナ4を装置P1の内部に収納する動作をすることにより、検出スイッチ7がON

からOFFに切替えられるので、制御部がこの場合の検出スイッチ7の出力結果に応じて装置P1を相手先の電話に対して不通にする制御を行う。以上により、使用者は、相手先との通話を終了する際、にアンテナ4を引き出し位置から装置P1内部の収納位置に向かって押し込むという簡単な操作をすることにより別途通話終了釦の操作をすることなく容易に装置P1を不通にすることができる。

#### 【0041】

(アンテナ4の回動動作に応じた機能)

##### 電話帳リストのスクロール機能

装置P1の表示部2に表示中の電話帳リストを選択手段としてのアンテナ4の回動動作により上下方向又は左右方向のいずれかの方向に沿ってスクロール選択させることができる。具体的には、使用者が、例えば装置P1の電話帳機能を用いて表示部2に電話帳リストの各情報を表示中に、使用者が、収納位置或いは引き出し位置にあるアンテナ4を回動させると、星型歯車8がアンテナ4と共に同方向に回動する。これにより、星型歯車8が収納位置に有る場合には検出スイッチ9のレバー11と歯合中の星型歯車8がアンテナ4の回動方向に応じた回路選択を断続的に行う。その結果、制御部が当該選択された回路が接続されたことを検出することによりアンテナ4の回動方向を検出し、それにしたがって現在表示部2に表示中の電話帳リストの各情報をアンテナ4の回動に応じた方向にスクロールさせる。また、アンテナ4が当該方向に回動中に、制御部がアンテナ4の当該選択された回路の断続回数を検出することによって、アンテナ4のその方向における回動量を検出し、当該回動量に応じたスクロール量で電話帳リストの各情報を上下方向又は左右方向のいずれかの方向に沿ってスクロール選択させることができる。

#### 【0042】

つまり、アンテナの回動方向及び回動量に応じた情報の選択が行なえるため、多数有る選択対象の中から所望の一つを短時間に選択することができる。たとえば、電話帳のリストが50音順で表示される場合、「遊園地」の電話番号を選択するには、先ずアンテナを高速で回動させて、その回動量に応じてリストを高速にスクロールさせる。そして、リストの名称が「ユ」に近づいた時点でアンテナ

を低速で回動させ、その回動量に応じて低速にスクロールするリストから容易に「遊園地」を選択することができる。仮に、目的の名称を行きすぎた場合も、回動方向にも応じてスクロールしているため、反対方向にアンテナを回すだけで容易にリストを戻すことができる。よって、多数の名称を有するリストの中から所望の名称を短時間に選択することができる。

#### 【0043】

また、星型歯車8が引き出し位置に有る場合には検出スイッチ10のレバー11と歯合中の星型歯車8がアンテナ4の回動方向に応じた回路選択を断続的に行う。その結果、上述した星型歯車8が引き出し位置に有る場合と同様に、制御部がアンテナ4の回動方向及び回動量を検出検出し、当該回動量に応じたスクロール量で電話帳リストの各情報を上下方向又は左右方向のいずれかの方向に沿ってスクロール選択させることができる。

#### 【0044】

したがって、使用者は、発信する場合又は着信する場合、、アンテナ4を操作するだけで、回動動作による電話帳リストのスクロール選択動作や、アンテナの引き出し位置までの引き出しによる発信動作又は着信動作や、通信感度向上のためのアンテナの伸ばし動作と行った一連の必要な動作を容易に行うことができる。従来の携帯無線電話装置の場合のように、互いに異なる場所に配置された、アンテナの引出し動作、電話帳リストのスクロールキー、通話鉗などをいちいち操作する手間がなくなる。また、特に電話帳リストのように多量の情報の中から必要な情報を迅速に選択したい場合には、スクロールキーの入力では、スクロール速度を上げることが難しく、情報の選択に時間を要するが、上述したアンテナ4の回動機能を用いることによって、容易にスクロール速度を可変できるため迅速に且つ容易に情報選択することができる。つまり、使用者は、アンテナ操作のみで、通信に必要な情報の選択から通信に必要な一連の動作を行なうことができる。

#### 【0045】

上述した第1実施形態では、表示部2に表示された電話帳リストの情報などの通信に関連する情報を選択する際に選択手段としてのアンテナ4を時計方向又は

反時計方向の2方向の何れかの方向に回動させることによってアンテナ4の回動方向及び回動量を検出スイッチ9、10で検出し、検出結果に基づいてスクロール選択ができるように構成したが、検出スイッチ9、10の代りにアンテナ4の回動軸に垂直な方向の移動を検出する検出スイッチを用いて、アンテナ4を頭部4aからみて上下左右の4方向に傾斜させる操作をさせた場合におけるアンテナ4の各方向への移動を検出するように構成しても良い。その場合は、使用者は、アンテナ4をジョイスティックのように操作されることにより、表示部2に表示中の各種情報を希望する4方向のうちのいずれかの方向に迅速に且つ容易にスクロールさせて適宜選択することができる。このような携帯用無線電話装置の例を以下の第2実施例により説明する。

#### 【0046】

図4は、本発明の第2実施形態における携帯用無線電話装置P2の主要構造を示す図であり、図4(a)は、アンテナが収納位置に有る場合の携帯用無線電話装置P2を装置内部の一部と共に示した図であり、図4(b)は、携帯用無線電話装置P2が有する検出スイッチ24の主要構造を収納位置に有るアンテナ4の回動軸を含む断面から見た図であり、図4(c)は、検出スイッチ24をアンテナ4の回動軸に垂直な方向、即ち、図4(b)に示すA-A断面方向から見た図である。

#### 【0047】

なお、携帯用無線電話装置P2の各構成において、先述した携帯用無線電話装置P1と同様の構成を有する構成部分は、携帯用無線電話装置P1と同一の符号を付してあり、ここでは、その説明は重複を避けるため省略する。

#### 【0048】

携帯用無線電話装置P2は、先述した第1実施形態における携帯用無線電話装置P1の各構成部分のうち、アンテナ4の回動を検出するための検出スイッチ9及び検出スイッチ10の代りに検出スイッチ24を備えて構成される。検出スイッチ24は、図4(b)及び図4(c)に示すように、ゴムなどの弾性部材からなるアンテナ保持部24aと、アンテナ保持部24aによる圧力を検知する複数の圧力センサ等からなる押圧検出素子24bにより構成される。なお、押圧検出

素子24bは、ここでは4個の圧力センサからなるものとする。

#### 【0049】

アンテナ保持部24aは、中空円筒部3aの中空部分に配されて、その一部が中空円筒部3aに取りつけられ、金属棒4bを緩挿した状態で当該金属棒4bをアンテナ保持部24aの当該一部が自ら有する弾性によって中空円筒部3aの中心に弾性保持する。また、図4(c)に示すように、アンテナ保持部24aは、直交するX-Y軸に沿った4方向の中空円筒部3aの内壁面との間に隙間が形成されている。また、4個の押圧検出素子24bは、それぞれ上記各隙間内の中空円筒部3aの内壁面側に取りつけられている。これらの押圧検出素子24bとアンテナ保持部24aとは、アンテナ4の静止時にそれぞれ互いに略等しい隙間を有して配されている。

#### 【0050】

検出スイッチ24は、以上の如く構成され、例えば使用者によりアンテナ4の金属棒4bを或る方向に撓ませた場合には、それに応じてアンテナ保持部24aの上記一部が弾性を有したまま変形することにより図7(c)に示すX-Y面に沿って金属棒4bが撓む方向と同方向に移動する。その結果、アンテナ保持部24aが、当該移動する方向に有る押圧検出素子24bを押すので、押圧検出素子24bが押された力に応じた検出出力を出力する。

#### 【0051】

ここで、4個の押圧検出素子24bは、X-Y軸上に配されているので、アンテナ保持部24aに押された力のうち、X軸上における正方向のベクトル成分、X軸上における負方向のベクトル成分、Y軸上における正方向のベクトル成分、Y軸上における負方向のベクトル成分をそれぞれ検出することができるので、装置P4の図示せぬ制御部が、これらの押圧検出素子24bの検出出力を合成することにより、アンテナ保持部24aが移動するX-Y平面上での方向を検出することができる。

#### 【0052】

図5は、使用者によってアンテナ4が図4(c)に示すX軸の正方向に押された場合の検出スイッチ24を示した図であり、図5(a)は、収納位置に有るア

ンテナ4により押された場合の検出スイッチ24を示し、図5（b）は、引き出し位置に有るアンテナ4により押された場合の検出スイッチ24を示している。図5では、アンテナ4がX軸の正方向に押されることにより、金属棒4bが同方向に撓んでアンテナ保持部24aを同方向に移動させることにより4個の押圧検出素子24bのうちX軸の正方向に配された押圧検出素子24bのみが力を受け押されることにより当該押された力に応じた検出出力を出力する。

#### 【0053】

したがって、図5（a）及び図5（b）の場合には、制御部がX軸の正方向に配された押圧検出素子24bの検出出力のみを検出するので、アンテナ4がX軸の正方向に移動したことを検出することができると共に、当該検出出力の大きさによりアンテナ4のX軸の正方向の移動量も検出することができる。

#### 【0054】

なお、図5（a）及び図5（b）からわかるように、使用者は、アンテナ4を収納位置から引き出し位置までの間の希望する位置に配置して、上述したアンテナ4の回動軸と垂直な方向に移動させる操作を行うことができる。

#### 【0055】

以上により、携帯用無線電話装置P2では、検出スイッチ24によってアンテナ4の回動軸に垂直な方向での移動を認識することができ、装置P2の図示せぬ制御部が検出スイッチ24の各押圧検出素子24bの検出結果に基づく制御を行うことにより、アンテナ4の当該移動動作に応じた機能を選択し動作させることができる。

#### 【0056】

具体的には、アンテナ4は、表示部2に表示中のカーソルをアンテナ4の移動動作に応じて表示画面上の希望する方向に希望する距離だけ移動させることができ、これにより、アンテナの回動動作では同時に2方向のみを選択対象としていたのに対し、同時に4つ以上の方向及び押圧量に応じて情報の選択ができる。よって、より細かい情報の選択が行なうことができる。

#### 【0057】

携帯用無線電話装置P2では、このほか、装置P2に設けられた検出スイッチ

7によって第1実施形態における携帯用無線電話装置P1の場合と同様のアンテナ4の上下方向の移動を認識することができるが、ここではそれらの検出動作の説明は重複するので省略する。

#### 【0058】

なお、上述した各実施形態では、装置内部のスライドガイド5の上端付近に検出スイッチ7を設け、該検出スイッチ7によってアンテナ4が引出し位置にあるか否かを検出し、検出結果に基づいてアンテナ4の上下方向の移動を検出するようにしたが、本発明は、これに限らず、図6に示す第3実施形態における携帯用無線電話装置P3のように、アンテナ4の上下方向の移動を装置内部のスライドガイド5の下端付近に設けられた検出スイッチ30により検出するようにしても良い。

#### 【0059】

図6は、本発明の第3実施形態における通信装置としての携帯用無線電話装置P3を示す図であり、図6(a)は、アンテナが収納位置に有る場合の携帯用無線電話装置P3を装置内部の一部と共に示した図であり、図6(b)は、アンテナが引き出し位置に有る場合の携帯用無線電話装置P3を装置内部の一部と共に示した図である。

#### 【0060】

携帯用無線電話装置P3は、先述した携帯用無線電話装置P1の各構成中のうち、検出スイッチ7の代りに検出スイッチ30を設けて構成される。したがって、携帯用無線電話装置P3の各構成において、携帯用無線電話装置P1と同様の構成を有する構成部分は、携帯用無線電話装置P1と同一の符号を付してあり、ここでは、その説明は重複を避けるため省略して、主として検出スイッチ30について説明する。

#### 【0061】

図6の携帯用無線電話装置P3において、検出スイッチ30は、先述した携帯用無線電話装置P1の検出スイッチ7と同様にON/OFFスイッチであり、装置P3内部のスライドガイド5の下端付近に設けられている。アンテナ4が収納位置に有る場合には、図6(a)に示すように、検出スイッチ30がアンテナ4

の下端部分に押されてONの状態となるので、装置の図示せぬ制御部がこれを検出することにより、アンテナ4が収納位置にあることを検出することができる。

#### 【0062】

また、アンテナ4が収納位置から上方の引き出し位置の方向に移動した場合には、アンテナ4の下端部分が検出スイッチ30を押すのを解除するため検出スイッチ30がOFFになる。

#### 【0063】

したがって、制御部が検出スイッチ30の検出結果に応じて以下に示す上述の検出スイッチ7と同様の各機能を動作させることができる。

#### 【0064】

(アンテナ4の上下移動動作に応じた機能)

##### (1) 電話の発信時及び着信時における通話機能

アンテナ4が収納位置に収納されて電話の待ち受け状態にある装置P3に相手からの電話の着信音による着呼が有った場合に、使用者がこれに応じてアンテナ4を引き出す動作をすることにより、検出スイッチ30がONからOFFに切替えられるので、制御部がこの場合の検出スイッチ30の出力結果に応じて着信中の相手の電話と回線接続させて通話可能となるように制御することにより、検出スイッチ30を電話の着信時における通話機能に用いることができるので、使用者が別途通話鈎を押す操作をしなくとも相手との通話ができる。

#### 【0065】

また、使用者が希望する相手に電話をする場合には、アンテナ4を引き出し位置まで引き出す動作をすることにより、検出スイッチ30がONからOFFに切替えられるので、制御部がこの場合の検出スイッチ30の出力結果に応じて、指定された相手先の電話に発信して発呼するように制御することにより、検出スイッチ30を発信時における通話機能に用いることができるので、使用者が別途通話鈎を押す操作をしなくとも相手の電話を発呼して通話することができる。

#### 【0066】

##### (2) 通話中における電話回線切断機能

電話の相手先と通話中に、使用者が、例えば引き出し位置にあるアンテナ4を

装置P3の収納位置に収納する動作をすることにより、検出スイッチ30がOFFからONに切替えられるので、制御部がこの場合の検出スイッチ30の出力結果に応じて装置P3を相手先の電話に対して不通にする制御を行う。以上により、使用者は、相手先と通話中にアンテナ4を引き出し位置から装置P3内部の収納位置まで押し込むという簡単な操作をすることにより別途電源釦の操作により電源をOFFにしなくとも通話中の相手先に対して容易に装置P3を不通にすることができる。

#### 【0067】

次に、アンテナ4が収納位置よりも下方の所定位置まで移動したことを検出することができるものについて図7を用いた第4実施形態により説明する。

#### 【0068】

図7は、本発明の第4実施形態における携帯用無線電話装置P4を示す図であり、図7(a)は、アンテナ4が収納位置に有る場合の携帯用無線電話装置P4を装置内部の一部と共に示した図であり、図7(b)は、アンテナ4が収納位置から下方に押された場合の携帯用無線電話装置P4を装置内部の一部と共に示した図である。

携帯用無線電話装置P4は、先述した第1実施形態における携帯用無線電話装置P1(図1参照)の各構成に加えて、検出スイッチ31を設けて構成される。

したがって、携帯用無線電話装置P4の各構成において、先述した携帯用無線電話装置P1と同様の構成を有する構成部分は、携帯用無線電話装置P1と同一の符号を付してあり、ここでは、その説明は重複を避けるため省略し、主として検出スイッチ31について説明する。

#### 【0069】

図7において、検出スイッチ31は、ON/OFFを検出するプッシュスイッチであり、スライドガイド5の下端付近に設けられている。アンテナ4が収納位置に有る場合には、検出スイッチ31は、アンテナ4の下端部分と離間しておりスイッチOFFの状態になる。また、収納位置にあるアンテナ4の頭部4aが使用者により押されてアンテナ4が収納位置よりも下方の所定位置まで移動した場合には、アンテナ4の下端部分が検出スイッチ31を押して検出スイッチ31が

ON状態になる。

#### 【0070】

また、使用者が収納位置にあるアンテナ4を押す操作を解除した場合には、ガイド部3の中空円筒部3aに設けられたばね6の復元力によりアンテナ4の頭部4aが押し戻されるので、アンテナ4が収納位置に配されるとともに、アンテナ4の下端部分が検出スイッチ31を押すのを解除するので検出スイッチ31がOFF状態になる。したがって、装置P4の図示せぬ制御部が、検出スイッチ31の検出出力によって、検出スイッチ31がONを検出している間は、アンテナ4が収納位置よりも下方の所定位置に有ると判断することができる。

#### 【0071】

以上により、制御部が検出スイッチ31の検出結果に応じて以下に示す機能を動作させることができる。

具体的には、制御部は、装置P4の電源がOFFの場合に検出スイッチ31がOFFからONに切り替わったことを検出した場合には、装置P4の電源をOFFからONに切替える動作を行い、また、電源がONの場合に検出スイッチ31がOFFからONに切り替わったことを検出した場合には、装置P4の電源をONからOFFに切替える動作を行う。

#### 【0072】

したがって、例えば、アンテナ4が収納位置に有り、且つ、電源がOFFの非動作状態の装置P4を用いて、使用者が、希望する相手先に電話をしたい場合には、使用者が、アンテナ4の頭部4aを内部に押し込む操作をすることにより電源がON状態にすることができる。

#### 【0073】

また、使用者が、アンテナ4の頭部4aを内部に押し込む操作を解除することにより、アンテナ4がばね6によって再び収納位置まで押し戻されるので、これにより使用者は、収納位置にあるアンテナ4を適宜回動することにより、そのときに表示部2に表示中の電話帳リストの中から希望する相手先の電話番号をスクロール選択することができる。また、使用者は、相手先の電話番号の選択に引き続きアンテナ4を引き出し位置まで引き出すことにより、検出スイッチ7がOFF

FからONに切り替わるので、制御部が、検出スイッチ7の出力結果に応じて、選択により指定された相手先の電話に発信して発呼することができる。

#### 【0074】

つまり、使用者は、非動作状態に有る装置P4に対し、電源の投入(ON)操作や、相手先の電話番号の指定操作や、相手先への発呼を伴う通信操作などの相手先との通信開始に関する一連の操作を、選択手段としてのアンテナ4のみの操作により容易に行うことができる。

#### 【0075】

また、例えば、使用者が、相手先との通話を終了させて装置P4をアンテナ4が収納位置に有り、且つ、電源がOFFの非動作状態にさせたい場合には、使用者が、引き出し位置に有るアンテナ4を装置内部に押しこむ操作をすることにより、アンテナ4の下端部分が検出スイッチ31を押してOFFからONに切替える。これにより、装置P4の電源がONからOFFに切替えられる。また、使用者が、アンテナ4の頭部4aを内部に押し込む操作を解除することにより、アンテナ4がばね6によって再び収納位置まで押し戻される。

#### 【0076】

つまり、使用者は、アンテナ4が引き出し位置まで引き出されて相手先と通信可能な状態の装置P4に対し、アンテナ4の収納位置までの収納操作や、電源の切断(OFF)などの相手先との通信終了に関する一連の操作を、選択手段としてのアンテナ4のみの操作により容易に行うことができる。

#### 【0077】

次に、アンテナ4が引き出し位置よりも上方の所定位置まで移動したことを検出することができるものを図8を用いた第5実施形態により説明する。

#### 【0078】

図8は、本発明の第5実施形態における携帯用無線電話装置P5の検出スイッチ18周辺の主要構造を示す図であり、図8(a)は、アンテナ4が引き出し位置に有る場合の携帯用無線電話装置P5の検出スイッチ18の主要構造を示し、図8(b)は、アンテナ4が収納位置からさらに所定距離引き出された場合の携帯用無線電話装置P5の検出スイッチ18主要構造を示した図である。

## 【0079】

携帯用無線電話装置P5は、先述した第3実施形態における携帯用無線電話装置P3の各構成部分に加えて検出スイッチ18を備えて構成される。したがって、携帯用無線電話装置P5の各構成において、先述した携帯用無線電話装置P3と同様の構成を有する構成部分は、携帯用無線電話装置P3と同一の符号を付し、ここでは、携帯用無線電話装置P5の主として検出スイッチ18にかかる構成及び動作の説明をおこなうものとし、その他の構成部分については携帯用無線電話装置P3と同様であるので説明は省略する。

## 【0080】

検出スイッチ18は、携帯用無線電話装置P5のガイド部3の中空円筒部3a内のばね6と取付けねじ3cの間に設けられており、ばね6が検出スイッチ18の上面に取り付けられており、また、検出スイッチ18が取付けねじ3cの上面に取りつけられている。検出スイッチ18は、アンテナ4が該引き出し位置より上方の所定位置まで引き出されたことを検出する。また、検出スイッチ18は、使用者がアンテナ4を引き出し位置よりもさらに上方に引く操作をやめた場合には、アンテナ4を引き出し位置まで引き戻して自ら初期状態に復帰する。

## 【0081】

図8に示すように、検出スイッチ18は、接点19を有する導電性金属からなる可動部20と、接点21を有する固定部22と、コイルばね23により構成される。可動部20及び固定部22の中央部分には孔が設けられており、アンテナ4の金属棒4bが摺動可能に貫通している。可動部20は、金属棒4bの下端部分に対し嵌合及び離脱が可能な形状を有する金属により形成されている。また、可動部20と固定部22は、接点19と接点21が互いに対向するように配されて、可動部20の接点19と固定部22の接点21との間には圧縮状態にあるばね23が金属棒4bを貫通した状態で配されている。

## 【0082】

検出スイッチ18は、図8(a)に示す初期状態では、ばね23の復元力により可動部20が固定部22に係止する。したがって、この状態では、検出スイッチ18は、接点19と接点21が接続されないので、スイッチOFFの状態とな

る。また、検出スイッチ18は、可動部20にアンテナ4の金属棒4bの下端部分が嵌合した状態にある場合には、図6(a)に示すように、ばね23の復元力によって当該アンテナ4を収納位置に配すると共に、自らを初期状態に復帰させる。

#### 【0083】

また、アンテナ4が引き出し位置に有る場合に、例えば使用者によりアンテナ4が引き出し位置からさらに上方に引き出された場合には、可動部20がアンテナ4の金属棒4bの下端部分により上方に押されるので、ばね23がさらに圧縮されるとともに接点19が上方に移動する。その結果、検出スイッチ18は、アンテナ4が引き出し位置よりも上方の所定位置まで移動した場合には、図8(b)に示すように、ばね23が圧縮された状態で接点19と接点21とが接続され、これによりスイッチONの状態となる。

#### 【0084】

このとき、装置P5の制御部は、検出スイッチ18がON状態であることを検出することにより、アンテナ4が引き出し位置から上方の所定位置まで移動したことを見出することができます。

#### 【0085】

また、使用者がアンテナ4を引き出し位置からさらに引き出す操作をやめた場合には、ばね23の復元力により可動部20がアンテナ4と共に下方に押し戻されることにより、アンテナ4が引き出し位置に移動すると共に、検出スイッチ18が自らスイッチOFFの初期状態に復帰する。

#### 【0086】

したがって、携帯用無線電話装置P5では、検出スイッチ18がOFFからONに切り替わることによってアンテナ4の上下方向における移動を認識することができ、装置P5の図示せぬ制御部が検出スイッチ18の検出結果に基づく制御を行うことにより、検出スイッチ18をON/OFFさせるアンテナ4の移動動作に応じた機能を選択し動作させることができる。

#### 【0087】

具体的には、検出スイッチ18がONとなった場合に制御部が装置P5の電源

の状態を切替えるように制御動作することができる。したがって使用者が、電源がONの状態に有る装置P5の電源をOFFに切替えたい場合には、例えば、引き出し位置にあるアンテナ4を収納位置と逆方向に向かってさらに引き出す操作をするだけで検出スイッチ18をONさせることができ、制御部がこれを検出することにより装置P5の電源をON状態からOFF状態にすることができる。

#### 【0088】

また、例えば使用者が通話中の電話の電源を非動作状態にするために電源をOFFにしてアンテナ4を収納位置に収納したい場合には、使用者は、引き出し位置に有るアンテナ4を引き出し位置より上方の所定位置まで引き出す操作することにより電源がOFFの状態に切り替わると共に、アンテナ4がばね23の復元力により再び引き出し位置まで引き戻される。

#### 【0089】

つまり、使用者は、例えば、相手との通話が可能な状態の装置P5に対し、アンテナ4を引き出し位置の上方の所定位置まで引き出す操作に引き続いで収納位置に向かって勢い良く押し込むという簡単なアンテナ4の操作のみで、アンテナ4を収納位置に収納することができると共に、別途キーパッド1に設けられた電源釦を押すことなく容易に電源をOFFにすることができる。

#### 【0090】

また、使用者がOFFの状態に有る装置P5の電源をONに切替えたい場合には、例えば、収納位置に有るアンテナ4を引き出し位置から上方の所定位置まで移動させることにより検出スイッチ18をONさせることができ、制御部がこれを検出することにより装置P3の電源をOFF状態からON状態にすることができる。また、アンテナ4は、その後ばね23の復元力により再び引き出し位置まで引き戻される。したがって、使用者は、例えば、アンテナ4が収納位置に有つて電源がOFFの非動作状態の装置P5に対し、アンテナ4を引き出し位置から上方の所定位置まで引き出すという簡単なアンテナ4の引き出し操作のみを行うことにより、結果的にアンテナ4を引き出し位置に引き出すことができると共に、別途キーパッド1に設けられた電源釦を押すことなく容易に電源をONにすることができる。

## 【0091】

なお、アンテナ4が引き出し位置に引き出された状態では、検出スイッチ7がONの状態となると共に、検出スイッチ10のレバー11が星型歯車8と歯合するので、使用者が、例えば電話帳機能を用いて表示部2に電話帳リストを表示すればアンテナ4を回動することにより相手先の電話に関する情報をスクロール検索することができると共に、制御部が、予め装置P5に指定されて記憶された電話番号又は、アンテナ4の回動によるスクロール検索の結果により指定された電話番号があれば、当該電話番号の相手先の電話に発信して発呼することができることは言うまでもない。

## 【0092】

なお、携帯用無線電話装置P5では、このほか、装置P5に設けられた検出スイッチ30、検出スイッチ9、検出スイッチ10によって第3実施形態における携帯用無線電話装置P3の場合と同様のアンテナ4の移動を認識することができ、ここではそれらの検出動作の説明は重複するので省略する。

## 【0093】

以上により、装置P5の図示せぬ制御部が、各検出手段の検出結果に基づく制御を行うことにより、アンテナ4の上記移動動作に応じた機能を選択し動作させることができる。

## 【0094】

なお、上述した第4実施形態における携帯用無線電話装置P4では、検出スイッチ31がスイッチOFFからONに切り替わることを検出することにより、アンテナ4が収納位置よりも下方の所定位置まで移動したことを検出し、制御部が当該検出結果に応じて電源の切替え動作を行うようにしたが、検出スイッチ31がスイッチOFFからONに切り替わることを検出することにより、アンテナ4が収納位置よりも下方の所定位置まで移動したことと、それに加えてアンテナ4がその後収納位置に配されることを検知するようにしてもよい。アンテナ4が収納位置よりも下方の所定位置まで移動した後は、使用者がアンテナ4を押す操作をやめることにより、アンテナ4がばね6の復元力により収納位置に復帰するからである。

## 【0095】

また、上述した第5実施形態における携帯用無線電話装置P5では、検出スイッチ18がスイッチOFFからONに切り替わることを検出することにより、アンテナ4が引き出し位置よりも上方の所定位置まで移動したことを検出し、制御部が当該検出結果に応じて電源の切替え動作を行うようにしたが、検出スイッチ18がスイッチOFFからONに切り替わることを検出することにより、アンテナ4が引き出し位置よりも上方の所定位置まで移動したことと、それに加えてアンテナ4がその後引き出し位置に配されることを検知するようにしてもよい。アンテナ4が引き出し位置よりも上方の所定位置まで移動した後は、使用者がアンテナ4を引く操作をやめることにより、アンテナ4がばね23の復元力により引き出し位置に復帰するからである。

## 【0096】

なお、上述した各実施形態における携帯用無線電話装置では、アンテナ4の上下方向において、アンテナ4の収納位置を検出する検出スイッチ30とアンテナ4の引き出し位置を検出する検出スイッチ7のうちいずれかの検出スイッチを設けたが、検出スイッチ30と検出スイッチ7の両方の検出スイッチを設けてアンテナ4が収納位置と引き出し位置にあることをそれぞれ検出スイッチ30、検出スイッチ7によって検出するようにしても良い。

## 【0097】

なお、上述した第1実施形態における携帯用無線電話装置P1では、アンテナ4の回動動作に応じた機能の一例として電話帳リストのスクロール機能を説明したが、本発明ではアンテナ4の回動動作に応じた機能はこれに限らず、例えば、メールの文字入力や各種表示画面のスクロール等といった情報を選択するものであればなんでも良い。

## 【0098】

また、アンテナ4の回動検出手段は、第1実施形態における星型歯車8及び検出スイッチ9（又は、検出スイッチ10）を用いた機構に限らず、アンテナ4の上下方向の各移動位置において回動を検出できる機構であれば良く、例えば、図9に示す本発明における回動検出手段のその他の実施例のように、アンテナ4の

金属棒4 bの側面に反射ミラーを等間隔に1周形成し、装置に設けられた光源からの光を反射ミラーで反射させて光検出器で受光するように構成すれば、アンテナ4が回動した場合には、光検出器が反射光によるアンテナ4の回動量に応じた数の光パルスを受光することができるので、アンテナ4の回動及び回動量を検出することができる。

## 【0099】

また、上述した各実施形態では、アンテナを有する携帯用無線電話装置により通信装置を説明したが、本発明における通信装置はこれらに限らず、アンテナにより無線通信を行う通信装置であれば全て対象となる。

また、

## 【0100】

## 【発明の効果】

本発明は、以上のように構成したので、使用者は、通信装置の通信に関わる一連の操作をアンテナの操作により容易に行うことができるので、使用者にとって操作の利便性が増すと共に、従来に比べてより迅速な操作を行うことができる。

## 【図面の簡単な説明】

## 【図1】

本発明の第1実施形態における通信装置としての携帯用無線電話装置P1を示す図。

## 【図2】

ガイド部の主要構造を示した図。

## 【図3】

検出スイッチと歯合する星型歯車の断面図。

## 【図4】

本発明の第2実施形態における携帯用無線電話装置P2を示す図。

## 【図5】

検出スイッチを示す図。

## 【図6】

本発明の第3実施形態における携帯用無線電話装置P3示す図。

【図7】

本発明の第4実施形態における携帯用無線電話装置P4の主要構造を示す図。

【図8】

本発明の第5実施形態における携帯用無線電話装置P5の検出スイッチ周辺の主要構造を示す図。

【図9】

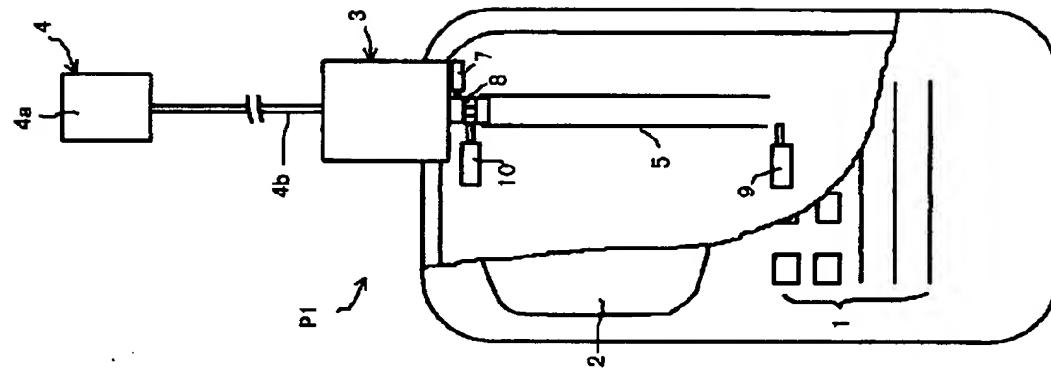
本発明における回動検出手段のその他の実施例を示す図。

【符号の説明】

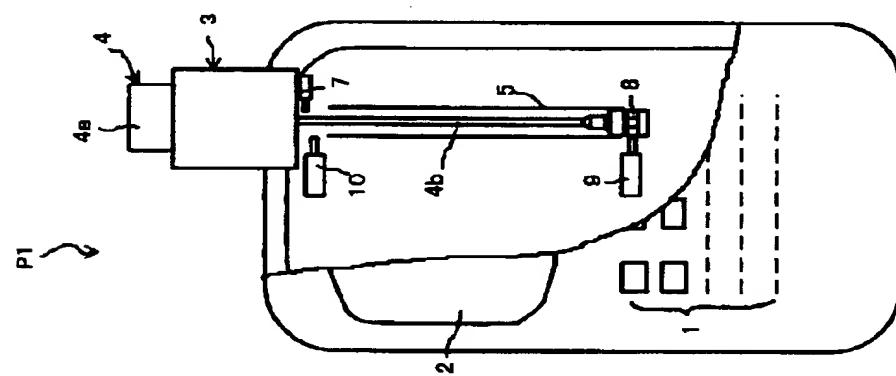
- 1 ····· キーパッド
- 2 ····· 表示部
- 3 ····· ガイド部
- 3 a ····· 中空円筒部
- 3 b ····· 金属ナット
- 3 c ····· 取付ねじ
- 4 ····· アンテナ
- 4 a ····· 頭部
- 4 b ····· 金属棒
- 5 ····· スライドガイド
- 7、9、10、18、24、30、31 ····· 検出スイッチ
- 8 ····· 星型歯車
- 11 ····· レバー
- 19、21 ····· 接点
- 20 ····· 可動部
- 22 ····· 固定部
- 6、23 ····· ばね
- 24 a ····· アンテナ保持部
- 24 b ····· 押圧検出素子

【書類名】 図面

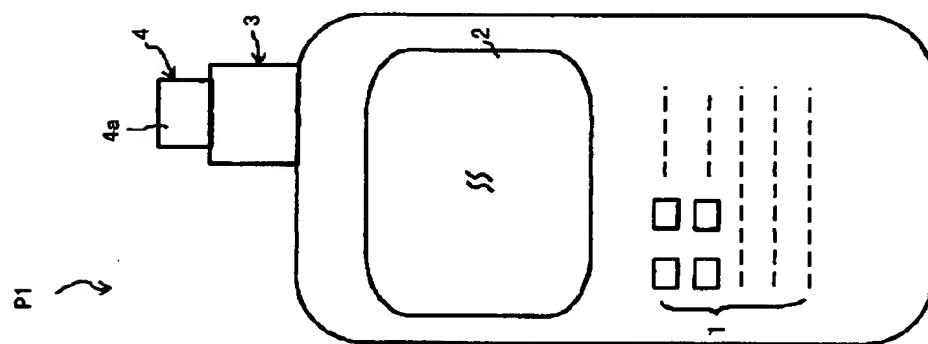
【図1】



(c)

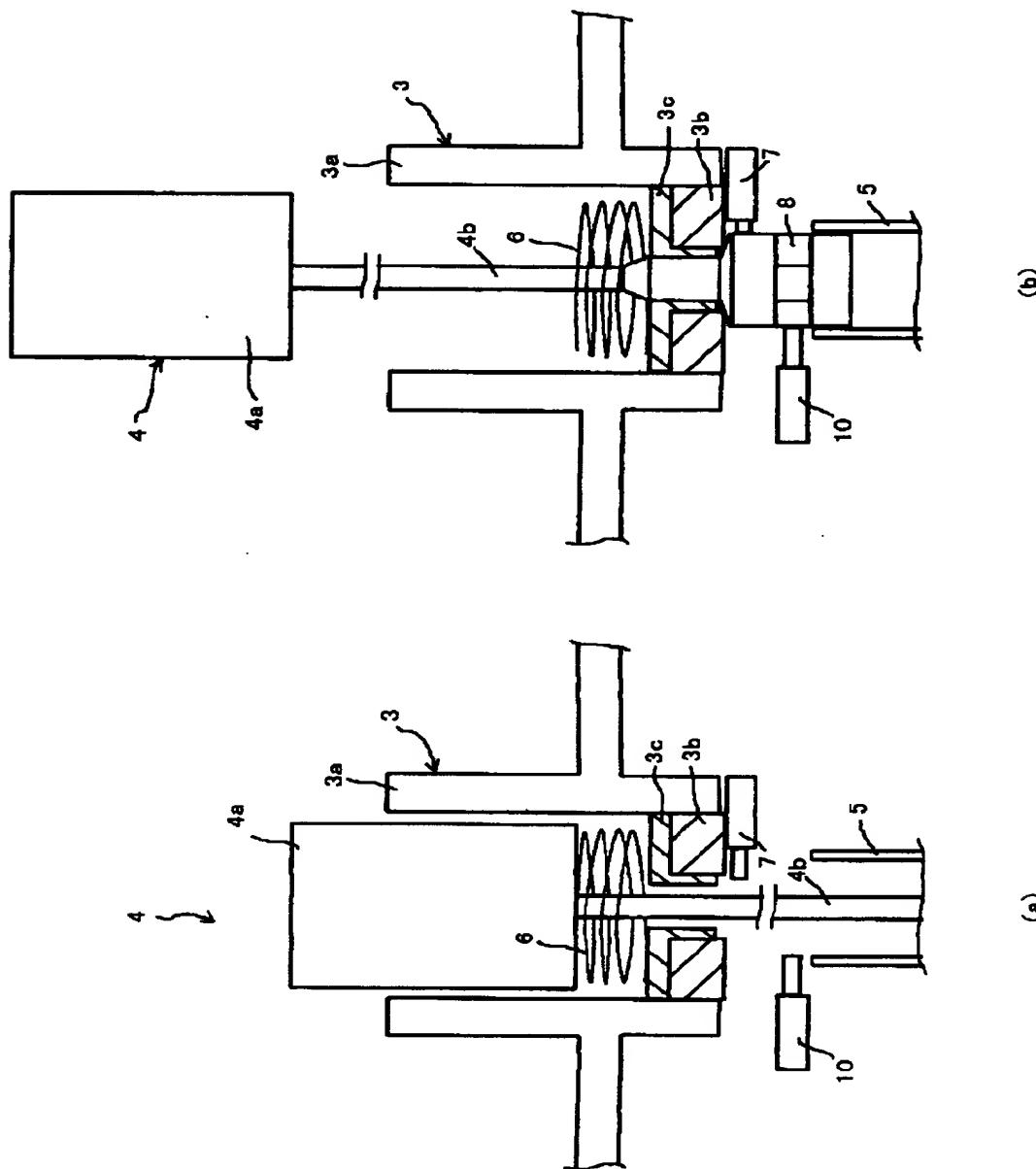


(b)

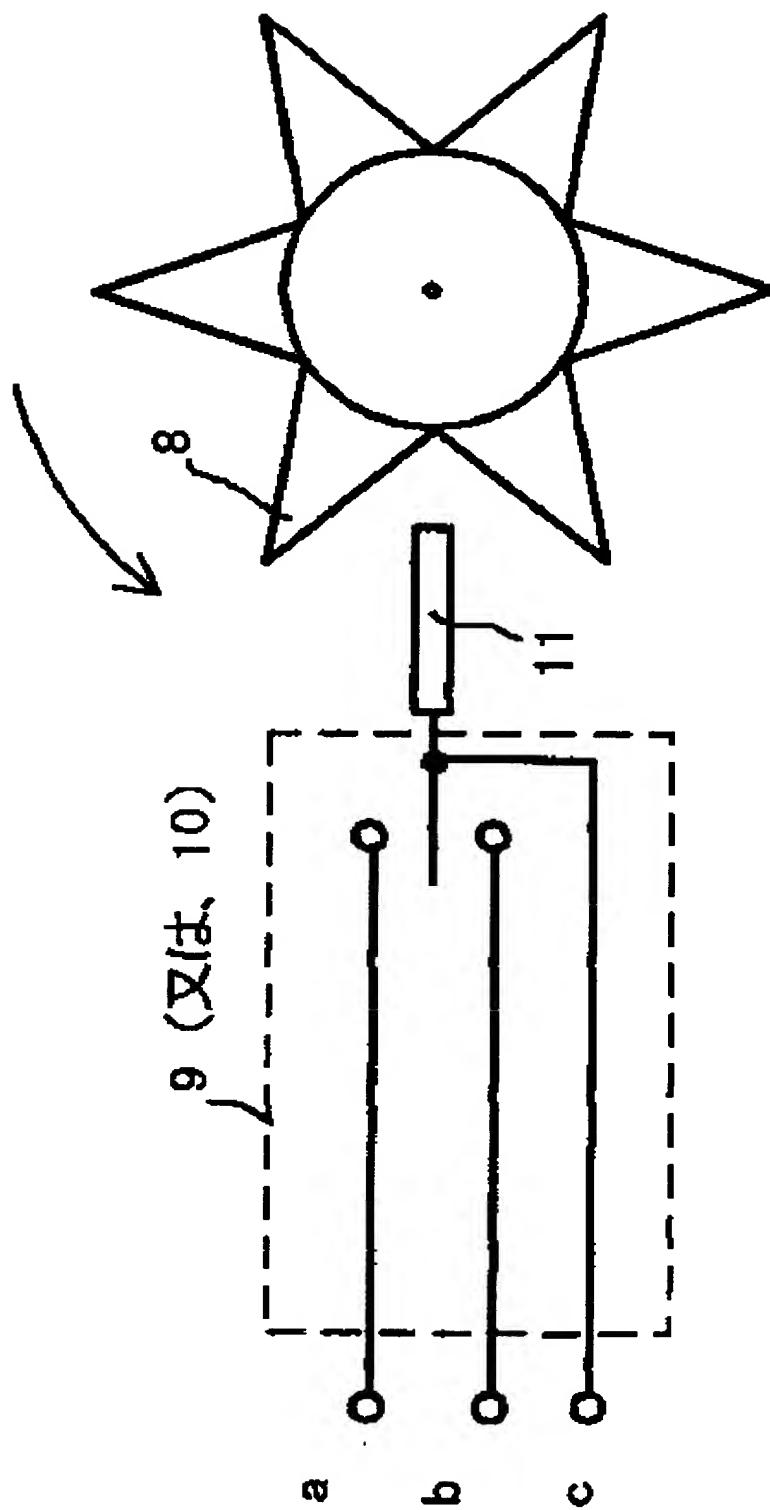


(a)

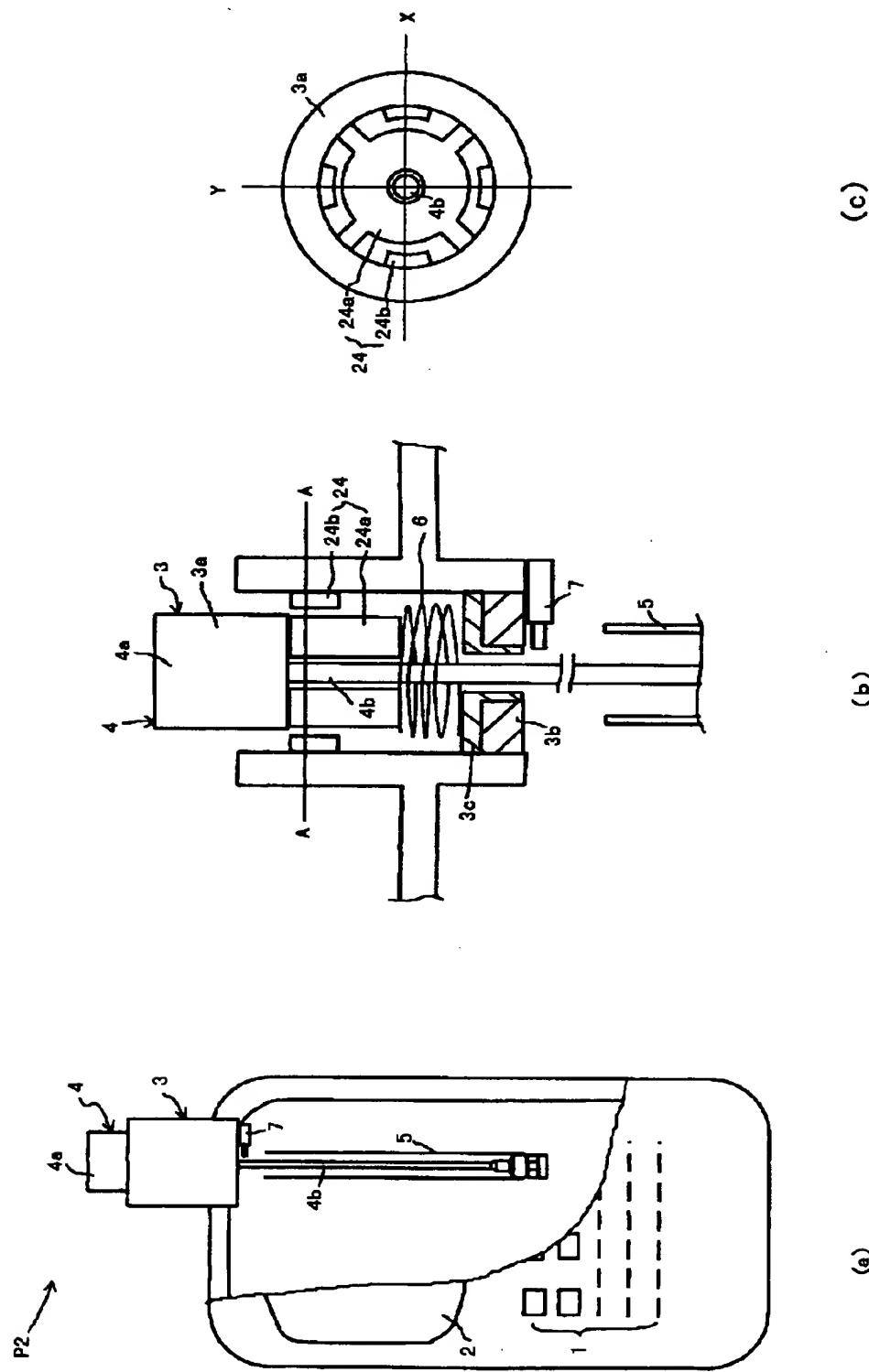
【図2】



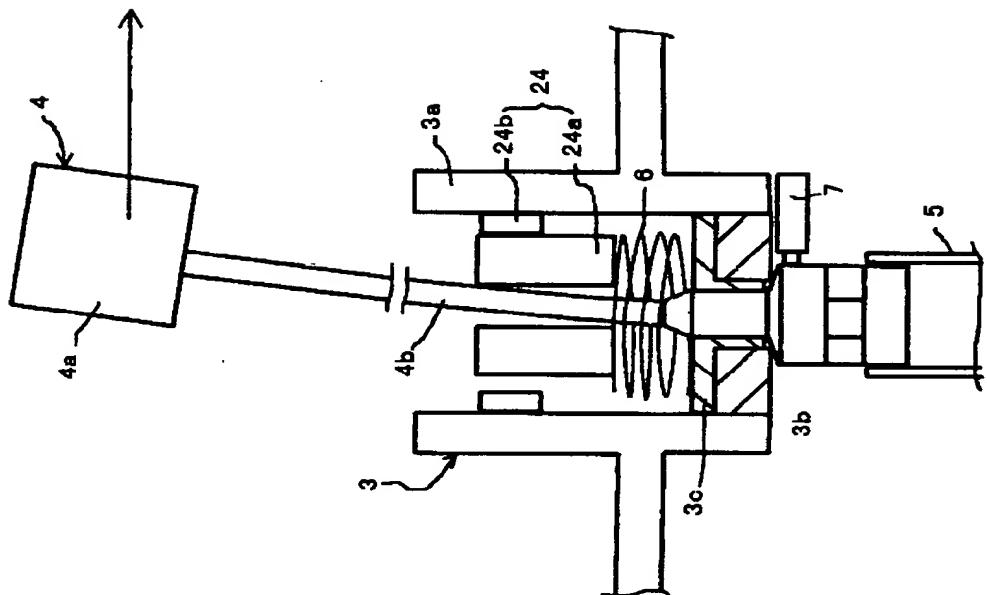
【図3】



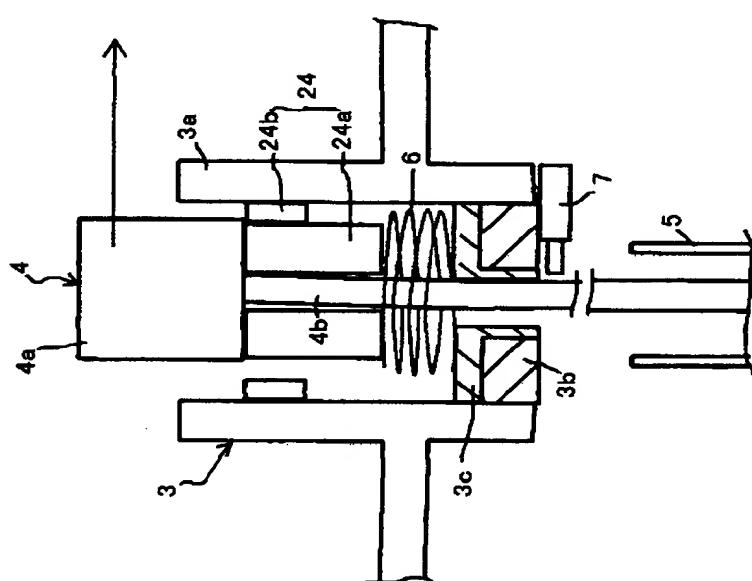
【図4】



【図5】

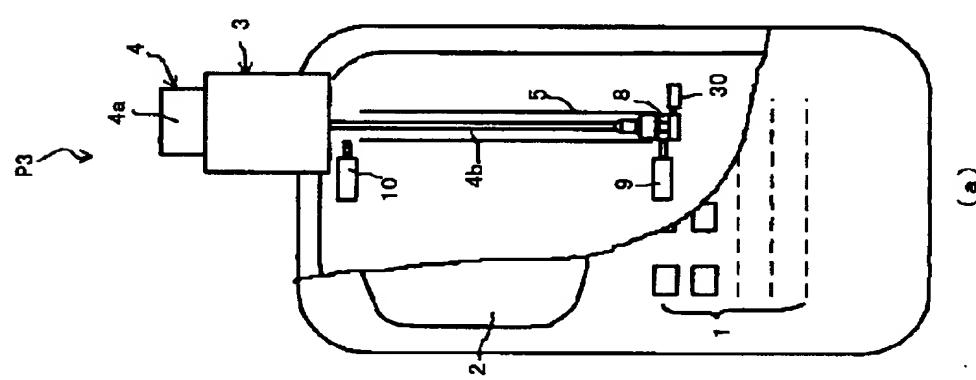
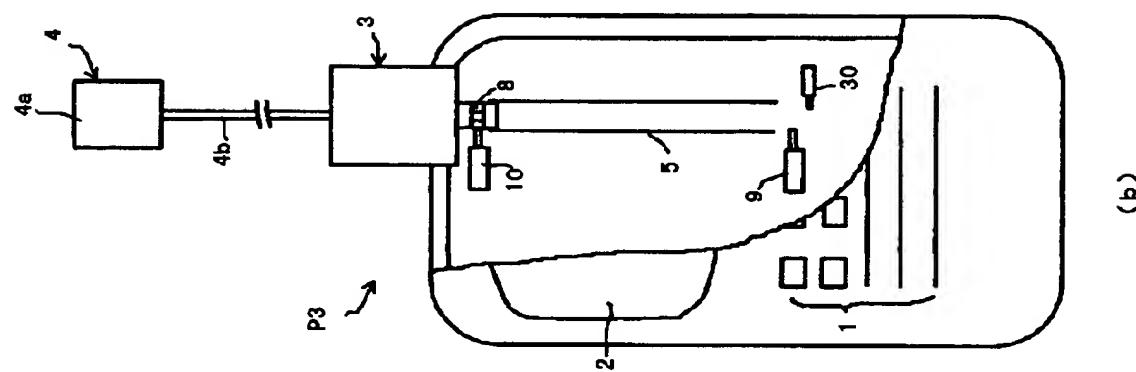


(b)

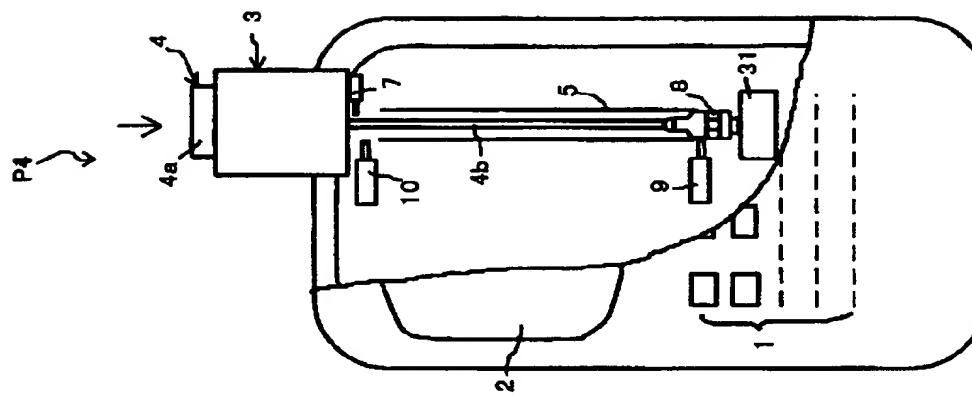


(a)

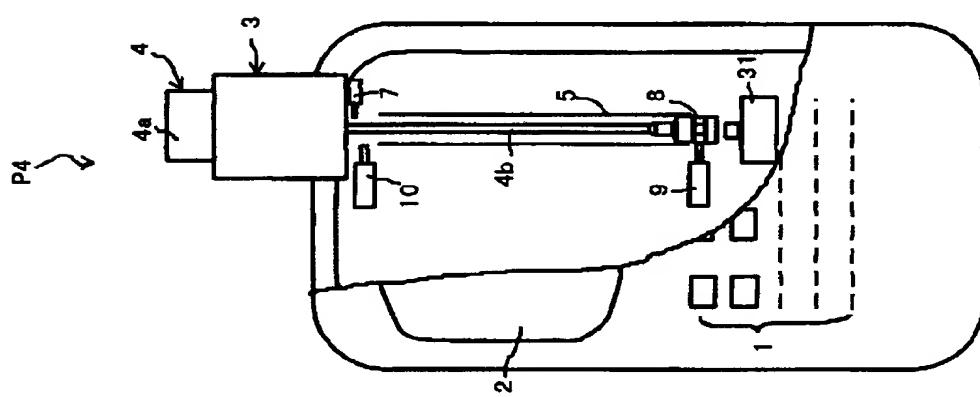
【図6】



【図7】

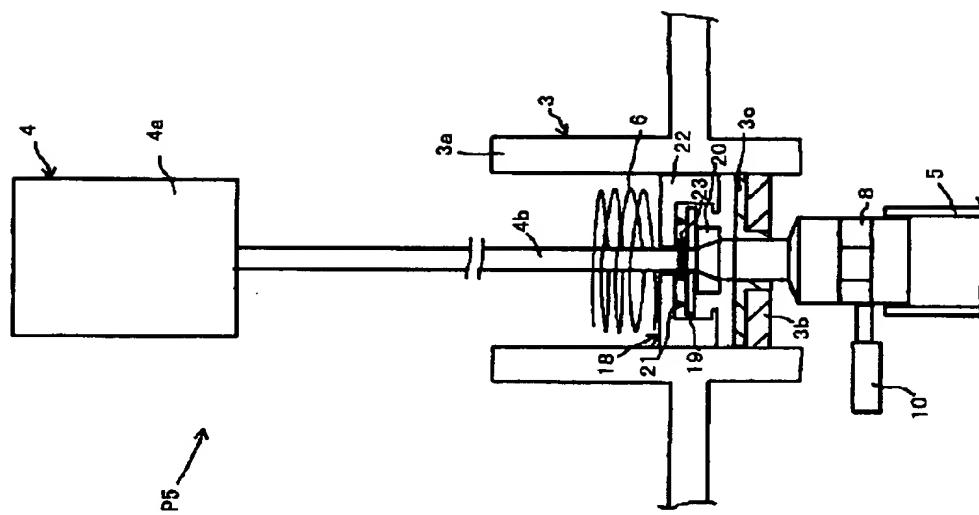


(b)

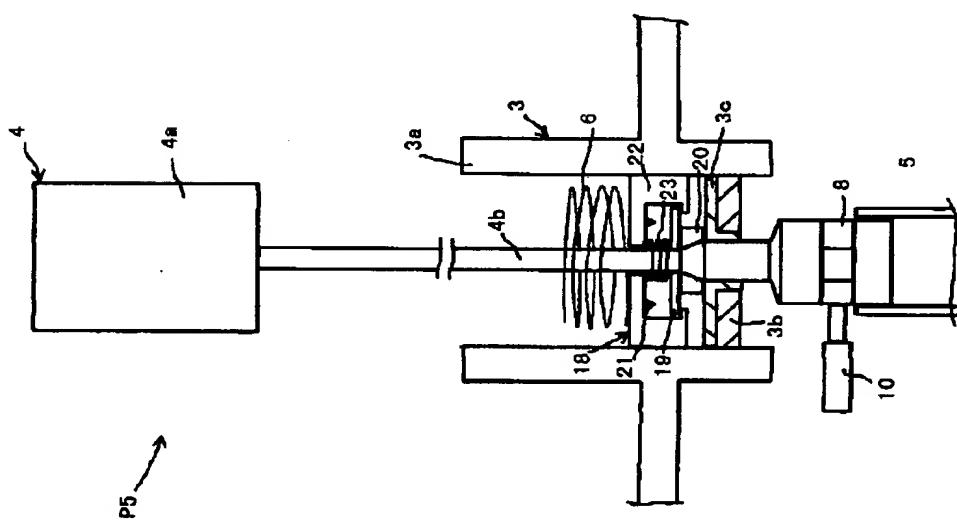


(a)

【図8】

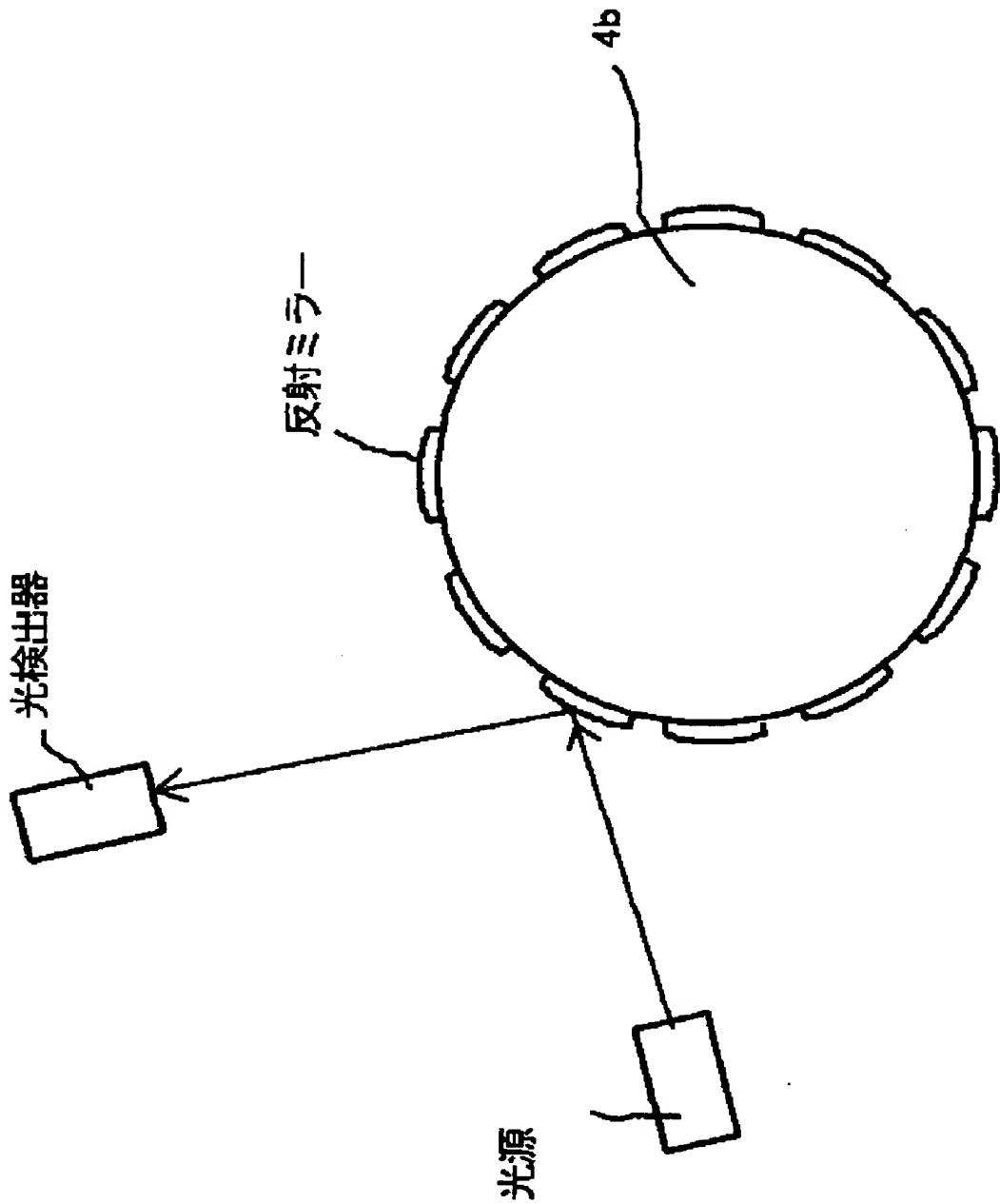


(b)



(a)

【図9】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 使用者が装置の通信に関わる一連の操作を容易に行うことのできる通信装置を提供すること。

【解決手段】 アンテナの各方向への移動を検出する各種検出スイッチを設けて、使用者が、アンテナを適宜移動する操作を行うことにより、これらの検出スイッチの検出結果に基づくアンテナの移動に応じた機能の操作といった装置の通信に関わる一連の操作を容易に行う。

【選択図】 図1

認定・付加情報

特許出願の番号 特願2000-131601  
受付番号 50000550100  
書類名 特許願  
担当官 塩崎 博子 1606  
作成日 平成12年 5月 8日

<認定情報・付加情報>

【提出日】 平成12年 4月28日

次頁無

出願人履歴情報

識別番号 [000005016]

1. 変更年月日 1990年 8月31日

[変更理由] 新規登録

住所 東京都目黒区目黒1丁目4番1号  
氏名 バイオニア株式会社